ブルーベリー栽培を通して農業の新たな可能性に挑戦する

合同会社 里仁農園
農業協同組合監査士
瀬戸川 正章さん
創価大学通信教育部
経済学部・法学部卒業

創価大学の通信教育部は、「いつでも、どこでも学べる大学」をモットーに、幅広い年代の方々に大学教育の道を開いています。経済学部、法学部、教育学部の三学部が設置され、卒業生は公務員をはじめ、さまざまな分野で活躍し、教員採用試験では一三年連続で年間一〇〇名以上の合格者を輩出しています。

Masaaki Setogawa

せとがわ・まさあき／一九五八年、鳥取市生まれ。一九八二年、創価大学通信教育部経済学部卒業。高校卒業後、鳥取市農業協同組合に。一九九二年、農協監査士試験合格。二〇〇七年、創価大学通信教育部法学部卒業。現在、鳥取いなば農業協同組合内部監査室室長。

鳥取空港から車で約一〇分、水田に囲まれた一帯で、一五〇〇本のブルーベリーを栽培する里仁農園。設立者の瀬戸川正章さんは、農協監査士として働きながら田んぼをブルーベリー畑につくり変える難題に取り組んだ。

「農園を始めたのは四九歳のとき。自立した農業をめざし、栄養価の高い果実として注目を集めるブルーベリーを選びました」

ブルーベリー栽培に適しているのは水はけ、水持ちのバランスが良い酸性の土壌。排水パイプを土中に埋めて水はけを改善し、ピートモスをカナダから輸入して少しずつ土に混ぜる。しかし、苗を植えた二〇〇九年は記録的な干ばつによる水不足に襲われた。早朝四時、東に見える久松山が朝焼けに染まる姿に自らを励ましながら、水やり作業にいそしむ日々が続いた。二〇一一年からは果樹自然栽培の専門家のアドバイスを受け、無農薬・無肥料による栽培にも挑戦している。

一昨年、観光農園として本格的に開園し、シーズン中に三〇〇〇人が訪れた。地道に努力する姿が周囲の農家に認められ、農園規模は一・三ヘクタールに拡大。農業生産法人としての認可も得た。農園一隅の加工所で、生産から加工、販売まで一貫して行う新たな取り組みもスタートする。

挿し木でブルーベリーの苗を育てる瀬戸川さん

「ブルーベリー摘みに来た家族が一日楽しめるよう、お母さんがジャムを作る間に、家族でバーベキューをする。お土産には和菓子職人がつくったブルーベリー大福餅を。どんどん構想を広げているところです」

瀬戸川さんの不屈のチャレンジ精神は学生時代に培われた。父親を亡くし大学進学を断念した瀬戸川さんは、高校卒業後、鳥取市の農協に就職。その後、進学への憧れを知った先輩が創価大学通信教育部の願書を取り寄せてくれた。

「その先輩には感謝してもしきれません。人生の恩人です」

スクーリングには、金曜日の仕事を終え、夜行列車の「出雲」で何度も往復した。

くじけそうになったときは「労苦と使命の中にのみ、人生の価値は生まれる」との創立者の指針を思い出し、〝負けじ魂〟を奮い起こして卒業した。三四歳のときには、難関の農協監査士試験への合格も果たす。

「TPPの問題も大切ですが、農業の自立はもっと大事。この事業が軌道に乗れば、経済的に大学進学をあきらめなければいけない高校生をサポートしたい」と夢を語る瀬戸川さん。豊かなアイデアと行動力を併せ持つ、信念の人だ。

創価大学
SOKA UNIVERSITY
創価女子短期大学
〒192-8577　東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215　http://www.soka.ac.jp/

Soka Report ｜創立者の軌跡｜ 平和・文化・教育の世紀へ 38

創価大学の創立者・池田大作先生は生命尊厳と平和社会のために、世界の各界の学識者との対話を推進。2002年10月、2004年4月にはインドの「緑の革命」の父と称えられる農学者でパグウオッシュ会議会長を務めたモンコンブ・S・スワミナサン博士と2回にわたり対談を行った（写真）。対談では食糧・環境問題、核兵器・教育問題まで「人間の安全保障」に関わる広範なテーマが語り合われ、両者の対談は『「緑の革命」と「心の革命」』として刊行されている。